

2025年(令和7年)2月21日(金曜日)



市職員やインドネシア関係者との座談会(提供写真)



地域活性化のヒントを探る 高校会議所が座談会

富士宮高校会議所は、このほど、市職員や事業者をゲストに迎え、地域活性化のヒントを

探る二つの座談会を西町レトロ館で行った。子供・若者への保健福祉施策や文化財の保存活用、インドネシアの食文化に理解を深めた。市職員との座談会は、策定中の「富士宮市子ども計画」に対する高校生

の意見を聞きたいという要望を受けて実施した。子ども未来課の佐々木明美課長らが計画内容を説明して意見交換し、文化課の渡邊後

本係長が「富士宮市文化財保存活用地域計画」や「仮称富士宮市立郷土史博物館基本構想」の周知を図った。メンバーは、子供と若者の今後について意見を寄せ、文化財の保存活用では独自の発想を交えた提案も伝えた。

インドネシアの食文化に関する座談会では、ホストプランニングの長谷川瑠美子取締役とインドネシアの出身者らを迎え、「インドネシアの魅力と日本ハラル食品とインドネシア食品のテンペ」をテーマに意見交換した。メンバーは、インドネシアの気候、産業生活についての話に耳を傾け、宗教的な戒律に沿った食生活の内容、日本や静岡県の違いなど、質問を重ねた。長谷川さんが普及・啓発に努めるインドネシアの大豆発酵食品「テンペ」の試食会もあり、テンペを活用した新商品やハラル食品の開発に意欲を膨らませた。